EURASIA BOOK

莫斯科大學教授
リヤシチエンコ原著
山下義雄譯

露西亞經濟史

南滿洲鐵道株式會社
調査課

検印
廃止

ユーラシア叢書 2

ロシア経済史　定価 5,000円

昭和四十九年八月二十二日 印刷
昭和四十九年八月二十六日 発行
復刻原本＝昭和五年刊

著者 P・I・リャシチェンコ
訳者 山下義雄
解題 飯田貫一
発行人 成瀬恭
印刷所 株式会社 平河工業
製本所 佐抜製本所
発行所 株式会社 原書房

東京都新宿区新宿一―二五―一三
振替口座 東京一五一五九四番
電話（354）〇六八五番（代表）

落丁、乱丁本はおとりかえいたします。
3322-20020-6945

例　言

一、本書は、一九二七年露國ペ・イ・リヤシチェンコ著露西亞經濟史（Исторія Русскаго народнаго Хозяйства）の全譯である。著者リヤシチェンコ教授は、現に第一莫斯科大學、莫斯科農業經濟學院、プレハーノフ經濟學院等に於て一般經濟、經濟史、協同組合事業、商業學を講し、經濟學者としてソウェート露西亞の學界に重要なる地位を占めてゐる。本著は、言ふまでも無くマルクス主義に立ち、唯物史觀的の見地から書かれた露西亞經濟發達史論である。著者の言へる如く、從來の露西亞經濟史は、多く十七、八世紀までを以て終りとし、現代即ち資本主義時代に關して叙述せるものは、特殊論文外には全く之を見ない。本書は、上代より現代に至るまでの露西亞經濟發展の總觀を收め、斯の種の著として殆んど唯一のものである。然し素と參考用として編述せられ、數卷とするも猶ほ足らざるべきを、强ひて一卷に縮約せるこ、博き史實の明示を缺き、且つ叙述を梗概に止めたるは、讀者として聊か憾みを感ぜざるに非ざるも、一般に經濟史家の特殊の興味を牽くところの十九世紀末、二

十世紀の露西亞經濟の發展は、數字的にも可成り精細に描かれてある。この點より見て本書を單なる產業革命史、交通史、金融史等として見ても、露西亞事情調査に志す者に資益するところ多かるべきを信ずる。

一、本書譯者囑託山下義雄、譯述にあたり原著上代史に現はるゝスラヴヤン語は、囑託イ・ゲ・グメニューク氏の說明に負ふところ多し。

昭和五年九月一日

總務部調査課

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

著者から

本『露西亞經濟史』は、一九二二―一九二六年中第一莫斯科大學經濟學部及び莫斯科の高等諸學院に於ける露西亞經濟史に關する著者の講義及び演習仕事の結果として編せられたるものである。經濟學史の學生に對する授業時並びに學生によりて各主題の演習勞作の行はるゝ際、學生にも、指導者にも共に極めて痛切に感ぜられたることは、我經濟發展史に關する一般的入門書の全然存在せざることであつた。目下世に行はるゝ國民經濟史の著述は、主として十七、八世紀までの古代期に止まり、國民經濟史の現代に關する講說の基本的部分、卽ち資本主義時代については、何ものも與へてゐない。此は經濟學徒の殊に遺憾とするところである。其の專門的主題の演習的研究に價値ある特殊論文は、また之れ一般的著述書に代用することは出來なかつた。故に其の屢々看取し得られたる如く、學生には、我國民經濟の胎生と、發展の段階及び行程の總觀を再現し得られなかつた。

本書は差向き經濟學の高等程度學校に於ける參考書として斯の直接目的に應ふべきものと信ず。而してこの意は書物を一卷に縮約し、序述を梗概的とし、並びに學生が各主題の更に深き研究に便し得る文獻的著作を類聚的に附示するを先決要項たらしめた。

乍併本書の斯る性質は、革命前の露西亞經濟史の基本現象を獨立的に知らんと欲する若干更に廣い範圍の讀者等

の要求をも、矢張り滿足せしむるに足るこ考へらるるのである。隨つて本著は、經濟讀本こして獨學目的の用をも併せ兼ね得べしこす。

度量衡比較表

區分	露國	米突法	日本	支那	英(米)國
尺	一露里(ウエルスト)(五〇〇サージエン)	一〇六六七八基米	〇二七一六里 九七七八町 三五三〇三七尺	一八五二里 六六六七五号	〇六六二哩 〇七七五六粍 五三〇〇三碼
	一サージエン(七フート又は三アルシン)	二一三三五六米	七〇四〇七四八尺	一三三三五号 六六七五尺	二三三碼 七〇呎
	一アルシン(一六ウエルショク又は二八ヂユイム)	七一二八七糎	二三四六九六尺	二二二五尺	二三三呎
	一ウエルショク	四四四五糎	一四六六八五寸	一三八九〇六寸	一七五吋
	一フート(一二ヂユイム)	三〇四八糎	一〇〇五八尺	〇九五三五尺	一呎
	一ヂユイム	二五四糎	八三八二三分	〇七九三七五寸	一吋
重	一ポード布度(四〇フント)	一六三八〇四九六基瓦	四三三四八貫	〇二七〇九六三斤	〇一六一三噸 〇〇八五六六米噸 (一米噸—六二一〇三七八六布度) (一米噸—五五三六〇二布度)
	一フント(九六ゾロトニク)	四〇九五二四一瓦	一〇九三三九匁 〇九一(二一〇匁斤)	一〇九七八五九兩 〇六八八一六斤	〇九〇二九二ポント 二四四五二二オンス

量	一ゾロトニク（九六ドーリヤ）	四・二六五七五 瓦	一・二三七五三 瓩	〇・〇一二八四九 瓩	〇・〇〇一二九一二五 瓲	〇・一四三六 兩	〇・一五〇四七 オンス	〇・〇〇一五六七五九 オンス	
容	一ドーリヤ	〇・〇四四四三五 瓦	九・七二六八 立方米	三四九・〇四五当三 立方尺	一・六一五九五 立方尺	二九一・四〇七四三 立方尺	二一・六四九三三七 立方呎	二一・六四九三三七 立方呎	
容積	一立方サージエン（二七立方アルシン）	三五、八五七・七〇八九三 立方糎	九・七二六八 立方米	三四九・〇四五当三 立方尺	一・六一五九五 立方尺	二九一・四〇七四三 立方尺	二一・六四九三三七 立方呎	二一・六四九三三七 立方呎	
容積	一立方アルシン（四〇九六立方ウエルショク）	三五、八五七・七〇八九三 立方糎	九・七二六八 立方米	三四九・〇四五当三 立方尺	一・六一五九五 立方尺	二九一・四〇七四三 立方尺	二一・六四九三三七 立方呎	二一・六四九三三七 立方呎	
容積	一立方ウエルショク	八七・八二四四 立方糎	八・七二四四 立方米	三・一五六一五 立方寸	一・〇一七九 立方尺	一〇・九七九〇五 立方尺	二・六六〇一七 立方寸	五・三五九三八 立方吋	
容積	一立方フート	二八三一六・八 立方糎	二八・三一六・八 立方糎	一・〇一七九 立方尺	〇・八六四四三 立方尺	（一容積噸―四〇立方フート）			
容積	一立方デユイム	一六・三八七一 立方糎	五八八・九四四 立方分	〇・五〇〇一 立方寸	一 立方 吋				
容積	一ウエドロ	二二・二九八五 リツトル	六・八一七七 升	一・八七八 斗					
地積	一平方露里	一・一三八〇一九五七 平方基米	〇・〇七二七八四六四五 方風 九九・六二四九三 町	三・四四八七三 方風 一八・五三一五 切					
地積	一デシヤチン	一〇、九二四・八八〇六一 平方米	一・一〇一六四四 町 三三・〇四九・三三 畝	一〇・九三三 畝					

露西亞經濟史

目次

著者から……一
緒論……一
第一編　原始經濟時代……一七
第一章　國內植民及國民經濟の胎生……一七
第一節　原始經濟の研究資料……一八
第二節　原始の地域占有……二一
第三節　天然條件……二四
第四節　原始的社會團體の影響……二六

第五節　原始經濟體制……三三
第六節　狩獵及林產業の意義……三六
第七節　經濟の實物的特色……三八
第八節　部族的生活態樣の崩壞……四一
第九節　露西亞の原始的戶制度……四三
第十節　土地關係……四五
第十一節　村落間の交涉、交換の發生……四七
第十二節　原始的都市……四九
第十三節　議會制及其の分化……五二
第十四節　奴隸所有……五四
第十五節　商　業……五五
第十六節　原始的國家結合體の商業的特質……六一
第十七節　商業と原始經濟……六六
第十八節　原始經濟發達の總計……六九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第二編　封建・都市經濟時代……七三

第二章　封建主義時代概說……七三

第一節　キーエフ時代露西亞發達の特色……七八
第二節　ノウゴロッド時代露西亞發達の特色……八一
第三節　ロストフ・スーズダーリ時代露西亞……八二
第四節　發達の一般段階……八三

第三章　村落經濟と農業關係……八八

第一節　村落經濟……八八
第二節　キーエフ時代露西亞の奴隷制度……九四
第三節　大土地所有の發生……九七
第四節　土地關係……一〇〇
第五節　共同的土地所有問題……一〇一
第六節　土地共有團の起原と發達……一〇三

第七節　黑土（チヨールヌイエ・ゼムリー）……一〇七
第八節　世襲地的土地所有……一〇九
第九節　御料地……一一一
第十節　寺領地……一一一
第十一節　農業住民の搾取……一一三
第十二節　ノウゴロツドの自作農……一一七
第十三節　土地的隷屬關係の經濟的原因……一一八
第十四節　先資本主義時代の小作人……一一九
第十五節　私有主的經濟の組織……一二一
第十六節　封建制經濟の特色……一二九
第四章　封建經濟時代に於ける商業と都市……一三六
第一節　工業の勃興……一三六
第二節　商工業中心としての都市……一四四
第三節　商業階級の成員……一五一

第四節　貨幣の流通……一五四
第五節　キーエフ時代露西亞の外國貿易……一五五
第六節　ノウゴロッドの外國貿易……一五八
第七節　ノウゴロッドに於ける外國貿易の組織……一六〇
第八節　貿易品……一六三

第三編　商業資本主義の發達……一六七

封建・世襲地制度の崩壞と貨幣經濟の勃興

第五章　商業資本時代の概說……一六七
第一節　モスコウ時代露西亞に於ける封建・世襲地制度の完成……一六七
第二節　經濟發達の特色……一七一
第三節　商業資本主義の本質……一七四
第四節　露西亞國民經濟に於ける商業資本主義の段階……一七八
第六章　村落經濟と土地關係……一八五

第一節　農業の技術的水準……一八五
第二節　生産關係と私有主經濟組織……一八八
第三節　耕奴……一八八
第四節　實物的及服役的地代……一九〇
第五節　小作契約（ポリヤードスカヤ）……一九一
第六節　徭役制度（バールシチーナ）……一九四
第七節　第十六世紀に於ける農業恐慌……一九六
第八節　世襲地制的土地關係の潰廢……一九八
第九節　世襲地と莊園の鬪爭……二〇〇
第十節　勞働力に對する鬪爭の結果として見るべき第十六世紀の農業恐慌……二〇二
第十一節　寺領の減少……二〇七
第十二節　隷農制的莊園の發達……二〇八
第七章　モスコウ時代露西亞の都市經濟……二一七
第一節　産業中心地としてのモスコウ時代の都市……二一七

第二節　都市住民の階級……二一九
第三節　都市の職匠仕事……二二一
第四節　村落の職匠仕事……二二三
第五節　大工業……二二五
第六節　結　語……二二七
第八章　商業と市場……二三一
第一節　商品生産の發生……二三一
第二節　商業中心としてのモスコウ……二三四
第三節　商業の組織……二三七
第四節　職業的大商業の發生……二四〇
第五節　外國貿易……二四八
第四編　商業資本主義と隷農制經濟……二五三
第九章　隷農制經濟の概說……二五三

第一節　隷農制經濟發達の一般的發達原因……二五三
第二節　隷農制經濟の段階……二五七
第三節　隷農制經濟崩落の端……二六一
第十章　隷農制的農業經營の勞働關係及其の矛盾……二六七
第一節　隷農制經濟の發達……二六七
第二節　隷農制的農業經營の組織……二七一
第三節　徭役制度……二七五
第四節　勞務稅制度……二八〇
第五節　生產性問題及地主企業……二八二
第十一章　隷農制工業……二九〇
第一節　工場式手工業時代の概說……二九〇
第二節　彼得時代の工場式手工業……二九六
第三節　官營的工場式手工業……二九九
第四節　特許的工場式手工業……二九九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com